

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	疫病	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	オンシツコナジラミ	マメハモグリバエ	ハダニ類	ネコブセンチュウ
プレビクールN液	28		*e	8	◎							
エンセダン乳	1B		-	6		ミ						
カルホス乳	1B	劇	*a	4					若 ◎			
ネマトリンエース粒	1B		*b	1								◎
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*c	1			◎	◎	○	◎		
			*d	5			◎					
アグリメック乳	6	劇	*a	5		◎				ト ◎		
パダンSG溶	14	劇	*a	4								
			-									
カスケード乳	15		*a	3		ミ				◎		
アプロード水	16		*a	6					幼			
アプロードエースFL	16・21A		*a	6				◎	○			

*a: 発生初期

*b: 植付前

*c: 定植時

*d: 生育期

*e: 発病初期

*f: 発病前～発病初期

ト: トマトハモグリバエ

ミ: ミカンキイロアザミウマ

幼: 幼虫

若: 若齢幼虫

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	定植前	1. 低湿地、排水不良な場所には栽培しない。 2. 発病地での連作をさける。 3. 発病地から株分け苗を採取しない。	根腐病も疫病菌の一種による。
	生育期	・発病株を早めに抜きとり、跡地に次の薬剤を土壌灌注する。 プレビクールN液剤 400～600倍 3ℓ/㎡	
えそ輪紋病	生育期	1. 罹病株は更新する。 2. アザミウマ類を防除する。	TSWVによる。苗感染に注意する。問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
うどんこ病		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 パンチョTF顆粒水和剤●* 2000倍 ポリオキシシリンAL水溶剤* 2500倍 モレスタン水和剤△* 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △モレスタンは薬害を生じるおそれがあるので注意する。 *花き類・観葉植物での登録
灰色かび病		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 ゲッター水和剤●* 1000倍 フルピカフロアブル* 2000～3000倍 ポリベリン水和剤* 1000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
菌核病		・発生を見たら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤●* 1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
モザイク病・ウイルス病	生育期	1. 罹病株は更新する。 2. アブラムシ類を防除する。	
アブラムシ類		・発生を見たら次の薬剤いずれかを散布する。 アドマイヤーフロアブル* 2000倍 オルトラン水和剤* 1000～1500倍 ロディー乳剤* 1000倍	*花き類・観葉植物での登録

ガーベラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ミカンキイロアザミウマ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤* 1000～1500倍 オルトラン粒剤(株元散布)* 3～6kg/10a パダンSG水溶剤 1500倍 モスピラン顆粒水溶剤* 2000倍 	*花き類・観葉植物でアザミウマ類での登録
コナジラミ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードエースフロアブル 1000倍 アルバリン顆粒水溶剤* 2000～3000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000～3000倍 ベストガード水溶剤* 1000倍 	*花き類・観葉植物での登録
マメハモグリバエ		<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 カルホス乳剤 1000倍 トリガード液剤* 1000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 	*花き類・観葉植物での登録
ヨトウムシ類		<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤* 1000倍 ノーモルト乳剤* 2000倍 	*花き類・観葉植物での登録
その他の病害虫		斑点病、半身萎凋病、紫斑病	